

災害と情報リテラシー

昨今、南海・東南海地震に備える報道が増えていますが、地震はいつ発生するか分かりません。災害発生時には適切かつ迅速な避難行動が求められます。

そのためには、いち早く正確な情報入手する方法が必要であり、この情報が命や生活を守ることにつながります。

災害時には、テレビ等のマスメディアや行政等の公的機関が発する情報、インターネットを通して個人が発する情報等、様々な情報が溢れます。中には、意図的に、または無意識に発せられた間違った情報等が含まれている場合もあり、次のような事例もあります。

災害時の避難や救助を混乱させるデマや誤情報

熊本地震の直後、ライオンが道路に立っている画像とともに「ライオンが動物園から脱走した」という内容がSNS投稿されました。実際には、画像は海外で撮影されたもので、偽情報と判明しました。投稿者は偽計業務妨害の疑いで逮捕されましたが、不特定多数の方が拡散し、動物園職員は百件を超える電話対応に追われました。

災害発生時、不安で冷静さを欠いたまま、これらの情報に触れると、鵜呑みにしてしまうこと

があります。また、「よかれ」と思っただけの情報を拡散してしまい、他者の人権を侵害したり、差別に加担したりしてしまっていることも起こっています。

差別や人権侵害、詐欺等の犯罪に加工しかねない情報

能登半島地震後、「外国系窃盗団が能登半島に集結している」という情報がSNSで拡散されました。県警本部は「確認されていない」としましたが、この情報は400万回以上閲覧されたといわれています。

平時時であれば差別や人権侵害などするはずがないと思っただけで、不安が連鎖していく集団心理に飲み込まれ、差別的な言動をとってしまうことがあります。

私たちは災害時であっても、自分の置かれた状況のみに囚われるのではなく、揺るぎない人権意識を身につけておく必要があります。

災害時の人間心理と行動

災害時には、次のような感情や思いが高まるといわれています。

- 不安：不安の中での強い要求が、不正確な情報まで受け入れてしまうことがある。

● 怒り：普段よりも冷静さを失い、じっくり考察する余裕をもつことができなくなる。

● 善意：何とか早く伝えたいと思ひ、不安になるような話を広めてしまうことがある。

これらの感情や思いが大きく膨らんでくると、人は欲求や行動を抑えるのが難しくなる場合もあります。

デマに惑わされない行動を

メディアの発達により、私たちの身の回りには大量の情報が氾濫していますが、前述したようなデマや誤った情報も多くあります。私たちはこれらを見分けるためにも情報リテラシーを身につけることが大切です。また、災害時の正しい情報は、人々の生死や安全に直結しています。いろいろな情報が錯綜する中、正確な情報を冷静にチェックし、発信者としての自覚と責任をもった行動をとることが大切です。

市教育委員会生涯学習課
 人権教育推進室(教育庁舎2階)
 ☎ 32・3814
 FAX 33・1230
 ✉ jinkenkyouiku@city.komatsushima.tokushima.jp

市民文芸 花みずき歌壇 (429) 山崎泰子・選

きみあやす母に似た人いたのだよきみの母抱く若き女性が

横須町 天王谷 一

クレヨンを笑顔で選ぶ子が描く虹色のゾウ青空を飛ぶ

日開野町 森 理子

いただいたもぎたてスモモ口のなか甘く酸っぱい夏を満喫

小松島町 綴木 茂治

浴衣着し合唱団の透きとおる歌声聞こゆ「夏の思い出」

小松島町 萬野 行子

八千代橋ゆうぐれを吹くほのぐらき風に抱かれて越えようとする

小松島町 萬宮千鶴子

ほのかなるシトラスの香のボディソープ重たき今日の疲れを流す

小松島町 六田 靖子

人ひとり思う心もあわあわとポワーンポワーンと斑鳩の里

中田町 湯浅 百世

竹の子のグングン育つそのパワー少し我が身に分けてくれぬか

前原町 福元 英夫

大輪の「夢花火」咲くや小松島 海川山も人間を育む

田浦町 岩田 泰一

体温を越える猛暑の続きおり日本列島逃げ場はなくて

中田町 松並 敦子